

# 続「金融滞留税」があったなら

お金を蓄えることは「罪」なのか「善」なのか。お金が「滞る」ことは「罪」なのか「善」なのか。これは、主語が何かによって、大きく違った（真逆の）評価となる。

前者の主語が「個人」となると「善」であろうが、「社会（全体）」となると、「善」とは言えず、むしろ「罪」となる。一方、後者の場合は、「個人」からは「罪」でもないし、結果として「溜まる」→「貯まる」→「善」となり得るのであろう。「社会（全体）」としては、想定される範囲内の「振れ幅」に対応する「バッファ」としての「滞留」は「善」であるが、それを明らかに超える「滞留」は「罪（社会の毒）」となる。

「お金の流れ」を「血流」に置き換えて考えると、分かり易い。「血流」がなくなるとそれを必要とする組織は、「壊死」するのであろう。それが、脳や心臓・肺などであれば致命傷となり得るのであろう。また、「血栓」や「瘤」により「血流」が滞留した結果、「血圧」が高まり、弱い部分から「出血（漏出）」し、流れるべき「血流」が阻害された場合、その先が、脳や心臓・肺などであれば、これも致命傷となり得るのであろう。

このような、考えをベースとして（2015/4/3）に「■デフレ脱却への処方箋」において「金融滞留税」を提起し公開した。（詳細は当件を参照願いたい）

その原資・対象は、法人の必要とされる「振れ幅」を超える「金融資産」や個人の「ただ滞留しているだけ」の「金融資産」。滞留させている罪滅ぼしの意味を込めて課税するものとし、その評価基準（単位）は「円日」とする。（面積課税：2次元で捕捉する）

課税対象は、提起時と基本的な部分は、変えていない。

利用目的の順序（プライオリティ）と内容は、以下の通りに改善する。

- 1) 教育：無利子奨学金、返還不要奨学金、現行の利子清算、無償化等への充当  
育兒：遍く総合的な支援「社会で育てる」目的
- 2) 収入が基礎年金のみ世帯への2階部分への創成、充当
- 3) 新規起業者・中小零細企業への融資・助成・補助を大幅に拡充
- 4) 非正規労働者に対する社会保障の確保および拡充

「お金」のジャストインタイム、オンデマンドに資する効果を期待しての提起となる。必要な時に、必要な人に、必要な分だけ、滞留させている法人・個人から新たな「お金」の流れを創り出すことにより、個人のみならず、本邦社会の“全体最適”を目指す。

その果実（内需拡大）により、「トランプリスク」は無関係に、「日本第一」に至る。

『悲観主義者はいかなる機会に恵まれても困難を見つけ、楽観主義者はいかなる困難であっても機会を見つける』皆様にチャンスとオポチュニティが与えられますように。